

第24回 日本ミャンマースタディツアー

～吉岡先生のお話を聞いて～

岩田 亘平

今回、ワチェの慈善病院でジャパンハートの活動を見学させていただき、代表の吉岡先生のお話を伺うことができた。

ジャパンハートは徹底した現地優先主義で、現地でも最も医療に恵まれない地域に進んで入っていき、無償で現地の人たちに医療を提供する稀有な組織だ。

経済発展も進んでいない国の中の、そのような恵まれない地域に医療が十分に提供されないのは当たり前で、まさか自分の人生の時間やお金を犠牲にして自分とは縁もゆかりもない国の人々のために尽くすなどという考え方は、私の人生において一度も触れたことのない考え方であった。だから、ワチェの病院を訪れる前は、他人のために自らを犠牲にするなど、素晴らしいと思うものの到底理解しがたいものだった。

「社会のために貢献したい」「他人の役に立ちたい」などという考えは、誰しもが一度は思ったことがあるだろう。しかし、私はそのような思想を体現するボランティア団体等を見ても単なる自己満足にしか見えないこともしばしばあり、違和感を覚えていた。

しかし、吉岡先生は、「自分のためにやっている。ミャンマーで自分たちの代わりに亡くなった日本軍の軍人の慰霊のため。そして、ミャンマーで貧しい人々を助けることで自分の存在価値を再認識できる。」とおっしゃっていた。他人のためではなく「自分のために」やっているという考え方に深く感動した。普通の人なら、こんなことは言えないだろう。「他人のためだから」という言葉を選ぶ。

十分な医療を受けられずワチェの病院にやってくる現地の人たち、へとへとになりながらも彼らの期待に応えようと活動されている先生方、看護師、現地スタッフの方々の姿は、これまでの私の人生において対峙したことのないものであり、いかに自分が恵まれた環境にいたか痛感した。

私は、来春から社会人として働き始める。やることは全く違うが、自らの成長のため、自らの価値を認識できるような仕事に出会い関わることができたら幸せだと思う。この経験を通じて、自分がどのような生き方をすべきなのか深く考える一助になった。